

宮里大八国際交流基金
Okinawan Dreams Project

成果報告書



2017 年 9 月

目次

■はじめに

■概要

■プロジェクト実施関係者

■メディア掲載

■サポート内容

■WEG 申請について

■プロジェクト全体スケジュール

■現地での様子

■報告会の様子

■寄付者及び助成機関、関係者

■助成金額

■おわりに

■はじめに

公益財団法人みらいファンド沖縄では、寄付者の想いをかたちにするために、寄付金の使い道に対し条件を決めることができる基金(じぶん基金)を支援しています。じぶん基金を活用して「宮里大八国際交流基金」を、沖縄の子どもたちに世界を経験させたいとの想いで設立しました。

宮里大八国際交流基金ではこれまで、世界 34 カ国の大学生が参加し、地域の課題を解決する成果発表を行う「エナクタス ワールドカップ (Enactus World Cup) 」へ大学生の派遣支援を行ってきました。その中で気づいたことは、大学生よりも若い世代である高校生や中学生に世界を感じてもらふ機会を提供することが重要であるということです。

世界の若者は、中高生の頃から PBL (Problem Based Learning ; 問題解決型学習) 型を行っています。沖縄の中高生も、一度、世界に飛び出し、世界にいる同世代の子ども達と出逢う機会をつくるため、英会話教材「スピークナチュラル」を活用した英語コミュニケーションのトレーニングを行い、アジアへの 旅費・滞在費を助成するプログラムを実施しました。

■概要

【沖縄では得られないアジアでの体験・冒険へ】

今回のプロジェクトでは、選ばれた中高生の方々に英語によるコミュニケーションを高めてもらうため、英語教材のスピークナチュラルを提供します。4 週間、英語教材で英語のトレーニングをして、フィリピン、インドネシアのいずれかで海外での体験・冒険してもらいます。そのための海外への旅費・滞在費、海外保険等の料金を助成します。

沖縄の先人たちは万国津梁の精神により、世界との架け橋・交流によって繁栄を築いてきました。今回の助成を活用して、中国や東南アジア、海外との交易を通して、人と文化の架け橋を目指してきた琉球の先人から受け継いだ志を受け継いでくれることを期待しています。

【寄付によって期待される効果】

沖縄とは違う人や文化にふれる機会を提供する



沖縄では得られないアジアの同世代が何を感じ、何を目標に生きているのかを知る



地域課題をグローバルな視点で考えるきっかけを作ることができる



自分自身の夢や目標を確認することができる

■プロジェクト実施関係者

設立者：琉球大学地域連携推進機構 特命准教授 宮里大八

協力者：トビタテ！留学JAPAN地域人材コース 3期生 名桜大学 4年次 比嘉綾乃
トビタテ！留学JAPAN地域人材コース 3期生 インドネシア在住 屋宜里佳
トビタテ！留学JAPAN地域人材コース 5期生 琉球大学 2年次 崎山明香里
株式会社Umore 平良美奈子、照屋葉月、山崎美里（RYU×RYUフェスタ2017実行委員）
ロープス株式会社 喜屋武舞美

採択者：比嘉楓花（ひが ふうか） 北谷中学校 1年生
山内寧乃（やまうち ねいの） 古波蔵中学校 2年生
中里歩夢（なかざと あゆむ） 鏡原中学校 3年生

■メディア掲載

2017年6月13日発行 琉球新報

ひとり親世帯中高生 無料短期留学を募集

宮里琉大教授ら

宮里大八琉球大学特命准教授は12日、県内のひとり親世帯や児童養護施設の中高生を対象にした無料短期留学制度の募集を始めた。同日、県政記者クラブで、宮里氏一写真中央と関係者らが記者会見を開き、募集を呼び掛けた。

短期留学制度では8月中旬に約2週間、フィリピン、



ベトナム、インドネシアの3カ国に生徒3人が派遣され、現地のNPOなどで就業体験などをする。旅費や滞在費、事前の語学学習費などは宮里氏がこのほど受賞した「ロッキーチャレンジ賞」の賞金100万円のほ

か、寄付で工面する。

宮里氏は「(短期留学で)沖縄でできないいろいろな体験をして、それぞれの夢へ向かって行ってほしい」と応募を呼び掛けた。

応募は30日までで、応募者多数の場合は志望動機などで選考する。募集の専用サイトはhttps://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfGo7FNgFk9EdNZan_gnJ1InK-LfGq_nuOwNTDPIWY7KXZWAQ/viewform

2017年6月17日発行 沖縄タイムス

困窮家庭対象に 生徒の留学支援

宮里准教授が応募呼び掛け

琉球大学地域連携推進機構の宮里大八特命准教授が立ち上げた「宮里大八国際交流基金」を活用し、県内の児童養護施設や、ひとり親家庭などの困窮世帯の中高生の海外留学を支援するプロジェクトの設立会見が12日、県庁であり、宮里准教授がプロジェクトへの応募を呼び掛けた。

募集期間は30日までで、7月に4週間の英会話トレーニングを受けた後、8月1～25日の間の2週間、フィリピン、ベトナム、インドネシアに各1人を派遣する。英会話教材は無償で現地でのコーディネートなどのサポートや旅費、滞在費などすべて同プロジェクトで負担する。

同基金は宮里准教授が受賞した「第8回ロッキーチャレンジ賞」の賞金と寄付金で賄う。本年度を皮切りに継続して3～5年の実施を見込む。

宮里准教授は「アジアにはもっと厳しい環境で生きる子どもたちがたくさんいて、それでも、



夢を持ち、目標に向かって笑顔で頑張っている。それを感じてもらいたい」と語った。

みらいファンド沖縄のホームページに応募フォームが掲載されており、寄付も受け付けている。問い合わせは、電話080(1720)3340、宮里。

■サポート内容 採択者に下記サポート内容を提供

- ・資金補助ーパスポート作成、海外保険、旅費、滞在費
- ・英会話トレーニング
- ・海外渡航の知識や目的形成
- ・現地渡航の同行、活動視察
- ・携帯配布ーLEQUIOS mobile（レキモ）様よりスマートフォン 4 台寄贈頂きました。

■WEG 申請について

フィリピン国籍以外の 15 歳未満の未成年者は、原則として、両親の付き添いなく単独でフィリピンに入国することはできません。一方、親子関係にない同伴者による入国については、駐日フィリピン共和国大使館又は総領事館から事前に「扶養・保証の同意宣誓供述書」の認証を受け、入国時に WEG(Waiver of Exclusion Ground)を申請することになります。

引用元：駐日フィリピン共和国大使館ホームページ

<https://tokyo.philembassy.net/ja/consular-section/services/visa/waiver-of-exclusion-ground-weg/>

今回、採択者の 1 人である山内寧乃が 15 歳未満だったため、本申請の手続きを在沖フィリピン共和国領事館で行いました。

・フィリピン沖縄領事館訪問（全 4 回）

①7/21(金)14:00~15:00【申請書受取&戸籍謄本郵送】

②7/26(水)13:00~14:00【提出書類確認】

③7/27(木)15:30~16:30【提出完了日】

④8/3(木)15:00~16:00【書類受取日】

その他、「未成年の単独・または片親のみ同行の渡航に条件のある国」一覧が、JAL ホームページに掲載されています。

<http://www.jal.co.jp/tabi/info/visa/miseinen/index.pdf>

■プロジェクト全体スケジュール

・英会話トレーニング 期間：7/18～8/2

エンカレッジ泉崎教室（全6回）

- ① 7/18(火)20:30～21:30
- ② 7/20(木)19:30～21:30
- ③ 7/25(火)19:30～21:30
- ④ 7/27(木)19:30～21:30
- ⑤ 7/31(月)19:30～21:30
- ⑥ 8/2(水)19:00～21:00

エンカレッジ北谷教室（全3回）

- ① 7/19(水)17:00～18:00
- ② 7/26(水)16:00～17:30
- ③ 7/29(土)15:00～17:00

・海外派遣 期間：8/1～8/20

【インドネシア】

受入先：バリ倶楽部

期 間：2017年7月31日(月)～8月14日(月)

スケジュール：

7月31日 沖縄発→インドネシア着

8月1日 バリ倶楽部地元スタッフ家族にて ホームステイ(1週間)

8月2日 バリ倶楽部スタッフのアシスタント体験

2日～7日 シュノーケリング、スタンドアップパドル マングローブ自然観察など

8日 バリ固有の文化が色濃く残る村の家族の 一員としてホームステイ（1週間）

8日～13日 地元の学校への体験入学、バリ舞踊練習、 自然や神様などの文化交流

14日 帰国

【フィリピン】

受入先：PALETTE SCHOOL

期 間：2017年8月5日(土)～8月20日(日)

スケジュール：

8月5日 沖縄発→フィリピン着

6日 入学式

7日～9日 通常授業

10日～11日 スタディーツアー&パヤタスホームステイ

13日 祝日

14日～18日 通常授業

19日 パヤタスにてプレゼンテーション

20日 帰国

■現地での様子

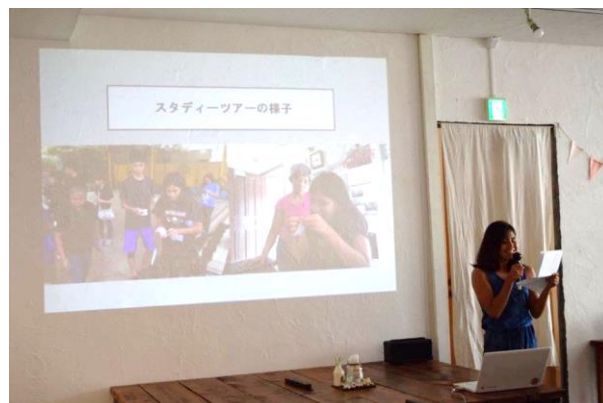
・比嘉楓花（インドネシア）



・山内寧乃、中里歩夢（フィリピン）



■報告会の様子



日時：平成 29 年 9 月 16 日(土) 17 時 00 分～19 時 00 分

場所：韓国 café yuyuri 〒900-0032 那覇市松山 1-3-18 フォレシティ松山 3f

自身の経験を、10 分間のプレゼンテーション形式で発表しました。「フィリピンのゴミ山の問題を解決する」「現地の人との幸せの価値観の違いを肌で感じた」「将来は素敵な笑顔のキャビンアテンダントになる」など、彼らが現地で学び感じたことを今後の夢や目標にどうつなげていくのか、一生懸命発表していました。以下がそれぞれの発表概要です。

中里歩夢

応募した理由は、フィリピン人の母を持ち、幼少時代に育ったフィリピンに行き、貧困層が住むスモークーマウンテンを体験し、自分探しをしたかったからです。

フィリピンでは、現地の人との交流、英会話の学習、スタディーツアーに参加した。英会話の先生がゲイの先生で、気に入られて困ってしまいました。

体験を通して、学校の先生になることとスモークーマウンテンのごみを無くす、という将来の夢を描くことができました。

山内寧乃

応募した理由は、夢である青年海外協力隊になることに踏み出せると思ったからです。

フィリピンでは、現地の人との交流、英会話の学習、スタディーツアーに参加し、ホームステイ先のフィリピン家庭の子どもたちと仲良くなった。最後は、帰りたくない、と思うようになりました。

体験を通して、青年海外協力隊に沖縄のことを世界に広めていくということを明確にすることができました。

そして、フィリピンでの経験を学校の校長先生にお願いして、学校での発表会をできるようにしたいと思っています。

比嘉楓花

応募した理由は、自分が見たことがない知らない世界の肌で感じたい、自分の視野を広げ、同世代の人たちとの交流を通してお互いのことを学びたかったからです。

インドネシアでは、プロサーファーにサーフィンを習い、バリ俱樂部というツアー会社でのお手伝いインターン、シュノーケル体験を行い、現地の家庭でのホームステイを経験した。ホームステイ先では、バリ音楽やバリ舞踊を習うことができました。

体験を通して、素敵な笑顔のキャビンアテンダントになりたいという夢ができました。

■寄付者及び助成機関、関係者

- ・仲村勲チャレンジ基金様、公益財団法人みらいファンド沖縄様、
- ・一般社団法人りゅうぎん国際化振興財団様
- ・城間恒司様、岩崎公典様、東浜克紀様、沖縄地域社会ビジョン大学院運営委員一同様
- ・バリ俱樂部 様、PALETTE SCHOOL 様
- ・LEQUIOS mobile（レキモ）様、ロープス株式会社 様、株式会社 Umore 様

■助成金額

1, 026, 847円

■おわりに

本報告書をまとめるにあたって、多くの関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。今回採択された3人の生徒が、インドネシア・フィリピンで沖縄では味わえない体験を通し、多くの学びや気づきを得て帰国しました。帰国後の聞き取りから、本プロジェクトは彼女ら自身の夢や目標をより明確にすることができたと実感しています。

今回の結果をもとに、次年度はさらにサポート体制を強化し、児童養護施設の中高生や、より多くの生徒に海外渡航のチャンスが与えられるよう、プログラムの質の向上を図っていきたいと考えます。

宮里大八国際交流基金 創立者 宮里 大八